

# 【普通作物】の【長雨・日照不足】対策について <7月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

## 【早期水稻】（出穂期～成熟期）

### （1）予想される被害状況

- ① いもち病が発生し減収しやすくなる。
- ② 登熟不良により、収量及び品質が低下しやすくなる。
- ③ 成熟期頃の稲では、穂発芽が発生しやすくなる。
- ④ 土壌が柔らかい場合、収穫作業が困難となる。
- ⑤ 収穫時の籾水分が高いと、コンバインのこぎ胴での損傷が生じやすい。
- ⑥ 水分の高い籾を、急激に高温で乾燥すると玄米の品質低下が生じやすい。

### （2）事前対策

- ① 長雨下での液剤や粉剤防除は時期を逃しやすいが、散布後に薬剤が乾けば効果はあるため、天候をよく確認しながら防除を行う。なお粒剤を使用する場合は、多雨での流出（オーバーフロー）に注意する。
- ② 収穫5日前迄間断かん水を行い、根の活力維持を図る。
- ③ 穂発芽の多い箇所は刈分けして、全体の品質が低下するのを防ぐ。
- ④ 収穫作業に向けて排水に努め、できるだけ土壌を固める。
- ⑤ 高水分の籾をコンバインで収穫する際は、こぎ胴の回転数を調整する。
- ⑥ 高水分の籾を、火力乾燥する場合は通風を十分に行い徐々に温度を上げる。

### （3）事後対策

- ① 穂発芽が多発した場合は、刈り分けして全体の品質低下を防ぐ。
- ② 浸水等でほ場に流入しているゴミは早めに取り除く。

## 【普通期水稻】（分けつ期～幼穂形成期）

### （１）予想される被害状況

- ① いもち病が発生しやすくなる。
- ② 中干しが十分できず、草丈が伸びやすくなる。

### （２）事前対策

- ① 天候不順で防除時期を逃しやすいが、散布後に薬剤が乾けば効果はあるため天候をよく確認しながら防除をしたり、粒剤を使用する。
- ② 中干し時に速やかに排水が行えるよう、溝切りを行う。
- ③ 葉色の濃いほ場では追肥量を減らしたり時期を遅くする。

### （３）事後対策

- ① いもち病の病斑を確認したら、直ちに防除を行う。
- ② 浸水等でほ場に流入しているゴミは早めに取り除く。

## 【大豆】（播種期～生育期）

### （１）予想される被害状況

- ① 播種作業が遅れ、収量が低下する。
- ② 湿害による発芽障害や生育不良が発生する。
- ③ 大豆の葉が地面を覆うのが遅れると、雑草が繁茂しやすくなる。

### （２）事前対策

- ① ほ場周囲及び畦間に排水溝を設置する。
- ② 播種時期の遅れに応じて、栽植密度を高めたり播種量を多くする。
- ③ 発芽率向上のため播種時には、種子粉衣は必ず行う。
- ④ 除草剤を散布したり、中耕・培土での除草を行う。

### （３）事後対策

- ① 発芽不良や欠株が多い場合は、早めに追播きを行う。
- ② 雑草が多く残った場合は、茎葉処理剤で除草する。